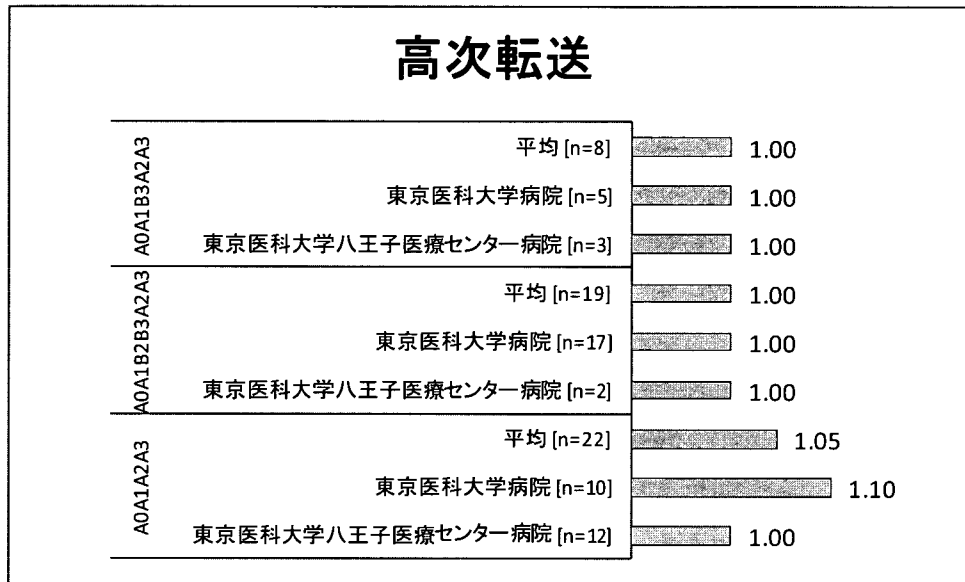
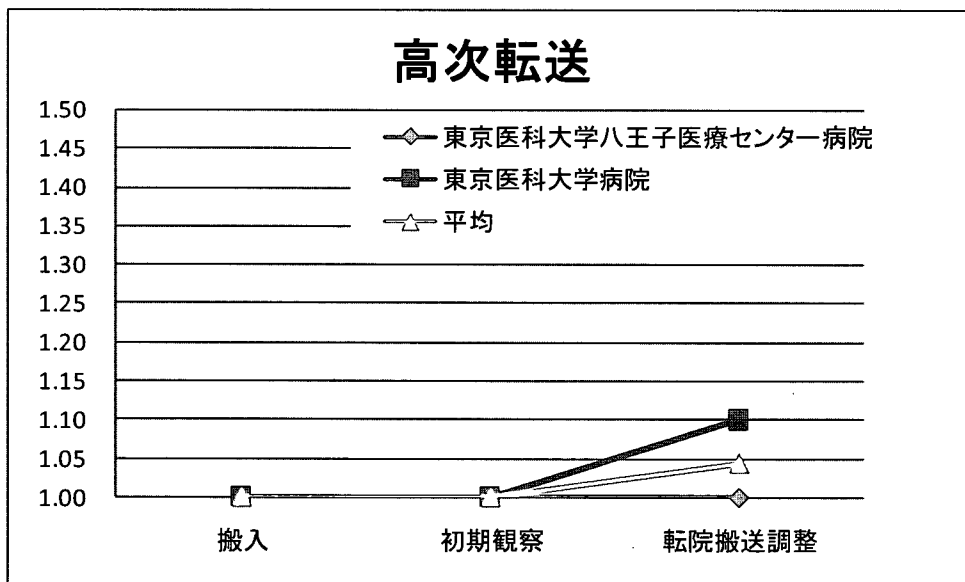


## 【中間集計】



高次転送の平均在院日数比較

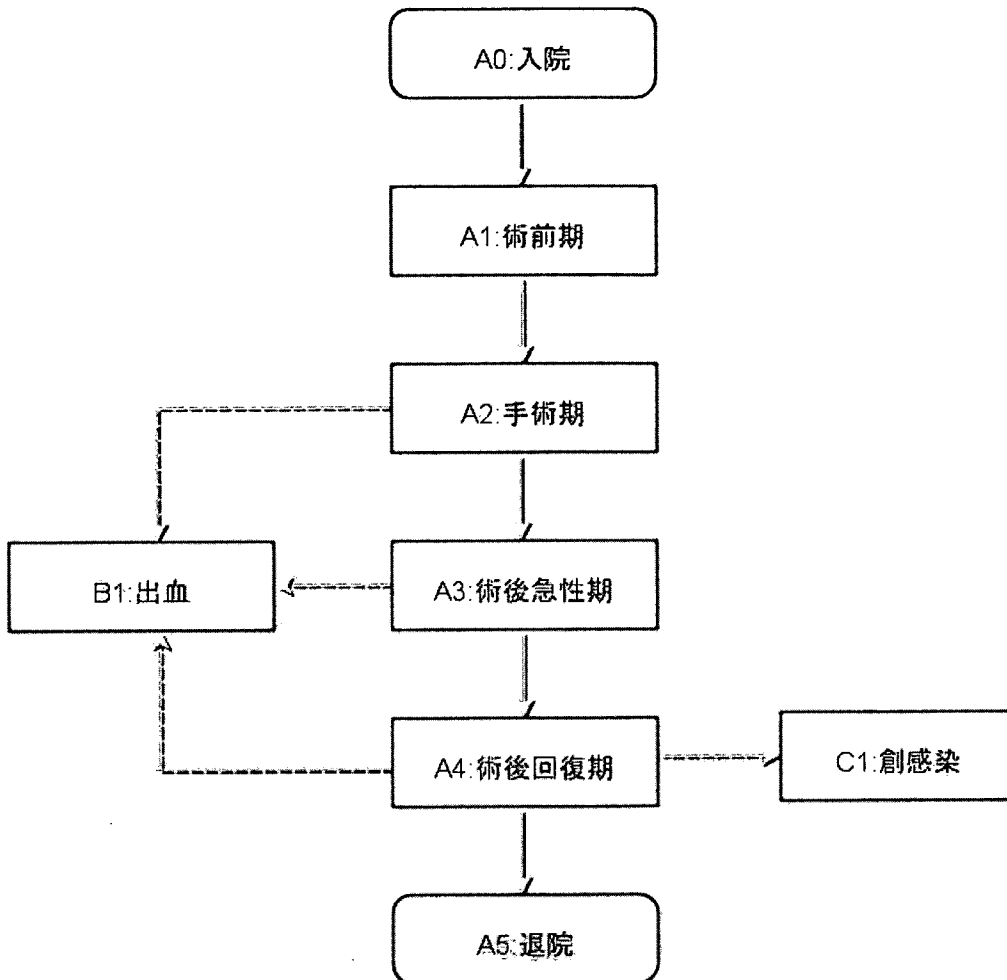


高次転送のユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

9) がん (手術)

乳房切除・温存



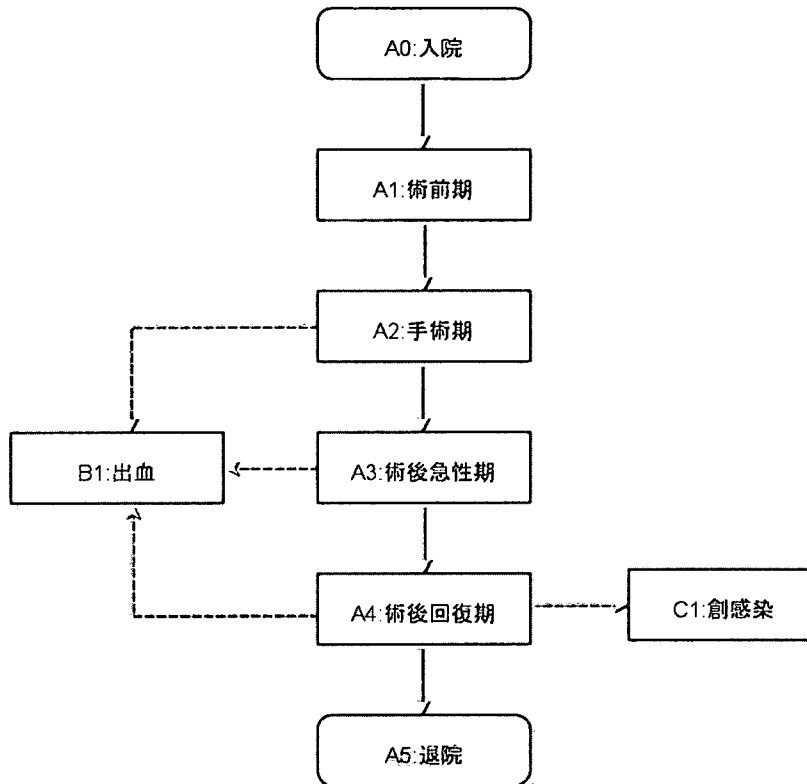
## 【中間集計】

### 移行ロジック一覧 乳房温存・切除術

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0:入院	無条件	A1:術前期	
A1:術前期	心肺機能異常, 凝固機能異常がない, またはコントロールされている and 38℃以上の上気道感染がない and 手術・麻酔の同意が取れている	A2:手術期	
A2:手術期	覚醒している and 循環動態が安定している and 出血していない 出血している	A3:術後急性期	
A3:術後急性期	出血がない or 創部よりの著明な出血, 血腫形成がない 出血がある	B1:出血	並列
A4:術後回復期	出血していない and 創部に感染兆候, 腫瘍がない and ADLが自立している and ドレーンが抜去できる	A4:術後回復期	
	出血している	B1:出血	並列
	創部の感染兆候・腫脹, 発熱があり, 抗生剤の内服によりコントロールできない場合.	C1:創感染	並列

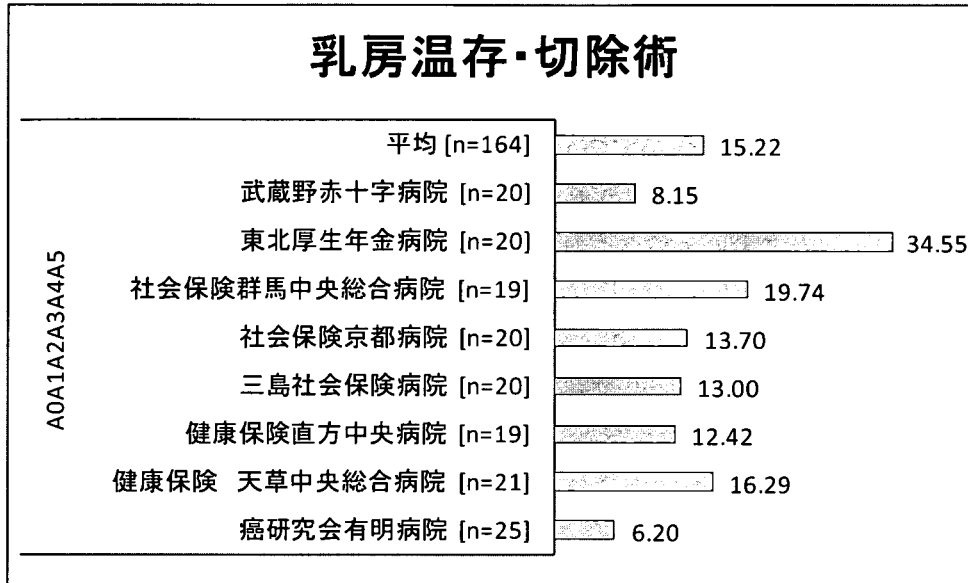
## 【中間集計】



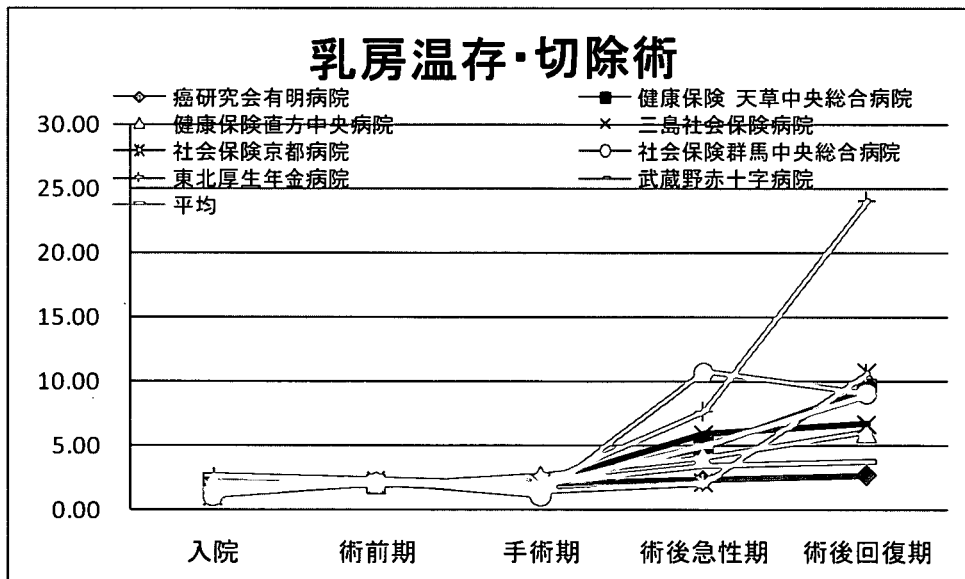
乳房切除・温存の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
乳房温存・切除術	A0-A1-A2-A3-A4-A5	164	98.2%	○	98.2%
	A0-A1-A2-A3-B1-A4-A5	1	0.6%	×	
	A0-A1-A2-C1-A4-A5	1	0.6%	×	
	A0-A1-A3-A2-A4-A5	1	0.6%	×	
	計	167	100.0%		

# 【中間集計】



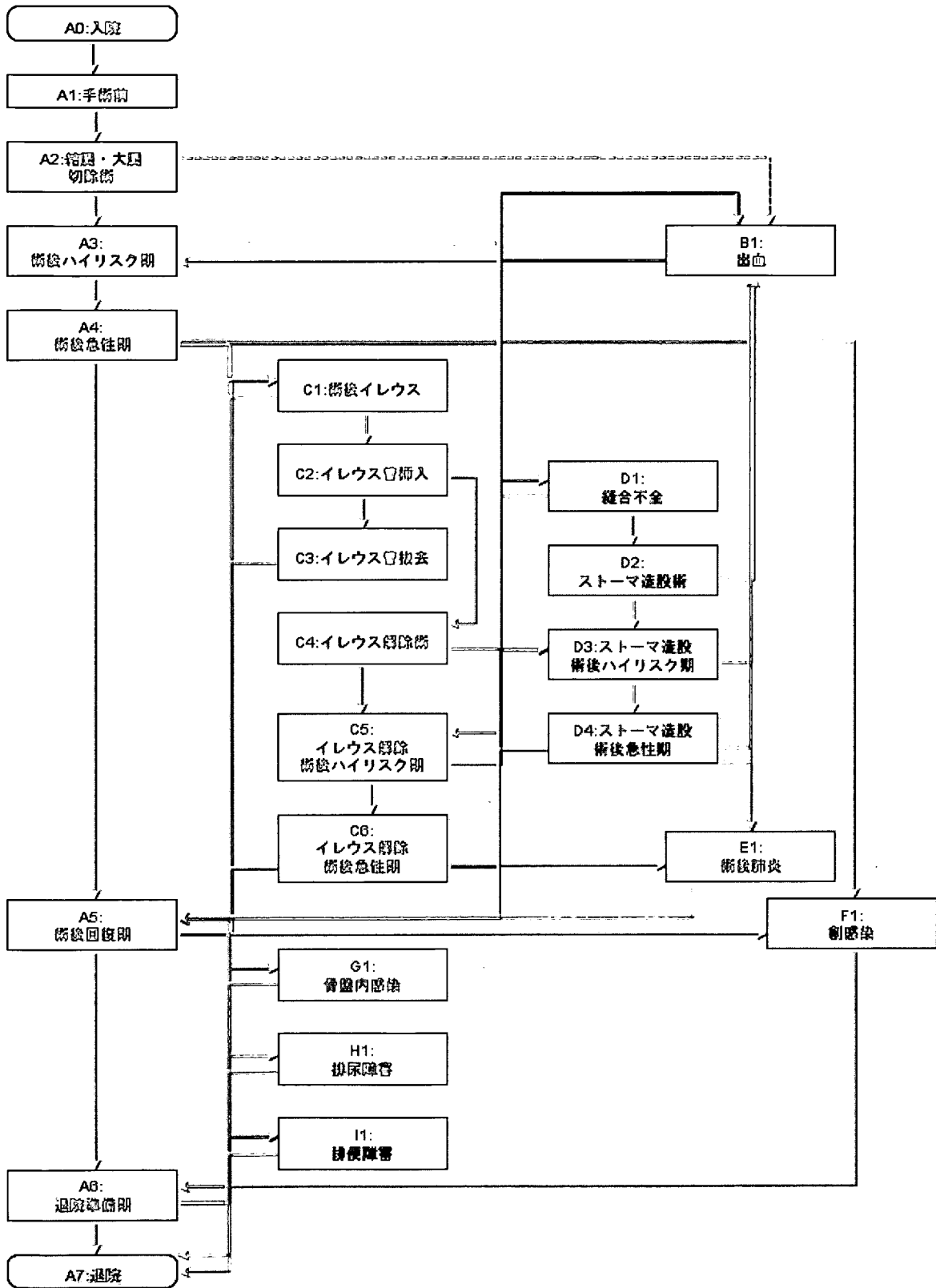
乳房切除・温存の平均在院日数比較



乳房切除・温存のユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

大腸がん



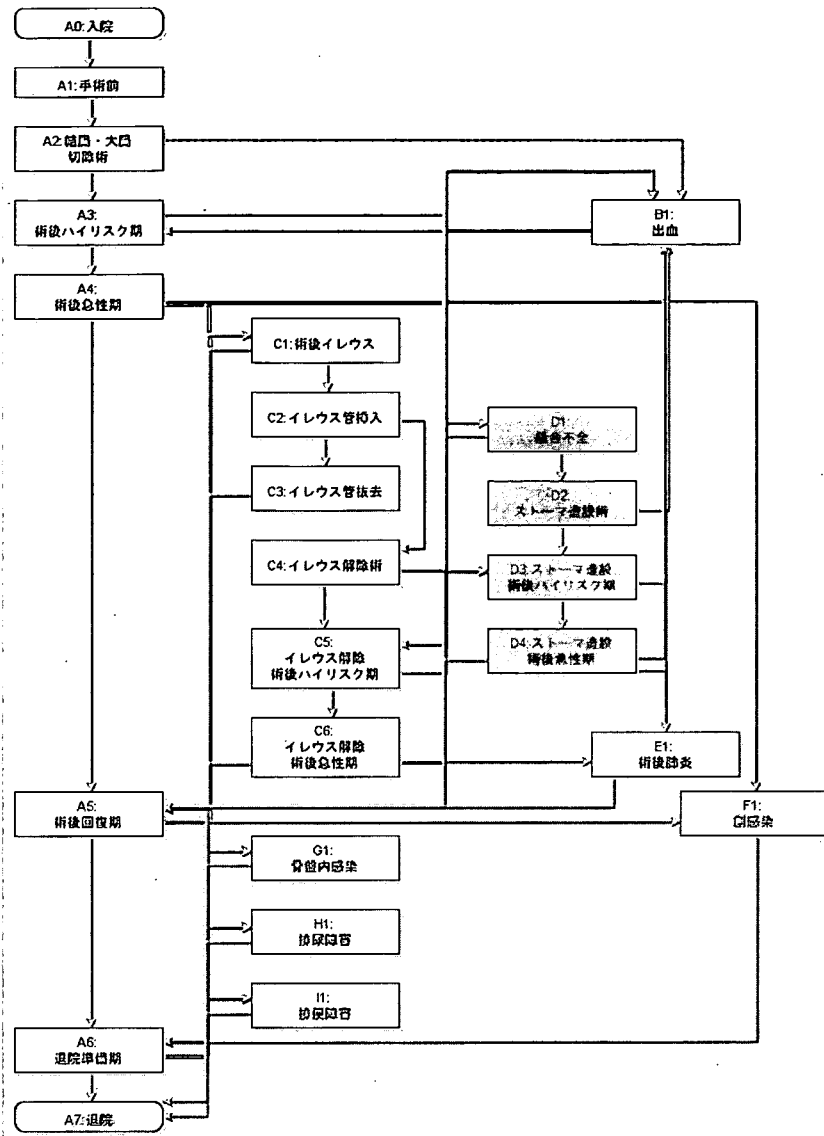
# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 大腸がん

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 入院	無条件で移行	A1: 手術前	
A1: 手術前	術前準備が整っている and 心肺機能異常、凝固機能異常がないorコントロールされている and 38℃以上の上気道感染がない and 手術の同意書がとれている	A2: 結腸・大腸 切除術	
A2: 結腸・大腸 切除術	麻酔覚醒が良好 and 循環動態が安定している 出血によるショック状態がある	A3: 術後ハイリスク期 B1: 出血	並列
A3: 術後ハイリスク期	麻酔覚醒が良好。and 循環動態が安定している。 and 呼吸状態が安定している 出血によるショック症状がある	A4: 術後急性期 B1: 出血	
A4: 術後急性期	体動拡大できる and 循環動態が安定している and 呼吸状態が安定している 出血によるショック症状がある イレウス症状がある 縫合不全症状がある 肺炎症状がある 創感染症状がある 骨盤内感染症状がある	A5: 術後回復期 B1: 出血 C1: 術後イレウス D1: 縫合不全 E1: 術後肺炎 F1: 創感染 G1: 骨盤内感染	
A5: 術後回復期	体動拡大できる and 食事摂取ができる イレウス症状がある 創感染症状がある 骨盤内感染症状がある 自然排尿が無い or 用手排尿後も残尿多量 下痢 or 便秘	A6: 退院準備期 C1: 術後イレウス F1: 創感染 G1: 骨盤内感染 H1: 排尿障害 I1: 排便障害	
A6: 退院準備期	退院可能な状態である and 発熱がない and 排ガス、排便がある イレウス症状がある 自然排尿が無い or 用手排尿後も残尿多量 下痢 or 便秘	A7: 退院 C1: 術後イレウス H1: 排尿障害 I1: 排便障害	
B1: 出血	止血が完了している and A-2, A-3, A-4から移行してきた 止血が完了している and C-4, C-5, C-6から移行してきた 止血が完了している and D-2, D-3, D-4から移行してきた	A3: 術後ハイリスク期 C5: イレウス解除 術後ハイリスク期 D3: ストーマ造設 術 後ハイリスク期	
C1: 術後イレウス	イレウス症状の改善 イレウス症状が持続する	A5: 術後回復期 C2: イレウス管挿入	
C2: イレウス管挿入	イレウス症状の改善 イレウス症状の改善がない(悪化する)	C3: イレウス管抜去 C4: イレウス解除術	
C3: イレウス管抜去	イレウス管の抜去	A5: 術後回復期	
C4: イレウス解除術	出血によるショック症状がある 麻酔覚醒が良好。and 循環動態が安定している。 ストーマ造設	B1: 出血 C5: イレウス解除 術後ハイリスク期 D3: ストーマ造設 術 後ハイリスク期	
C5: イレウス解除 術 後ハイリスク期	出血によるショック症状がある 麻酔覚醒が良好。and 循環動態が安定している。and 呼吸状態が安定している	B1: 出血 C6: イレウス解除 術後急性期	
C6: イレウス解除 術 後急性期	体動拡大できる and 循環動態が安定している and 呼吸状態が安定している 出血によるショック症状がある 縫合不全症状がある 肺炎症状がある	A5: 術後回復期 B1: 出血 D1: 縫合不全 E1: 術後肺炎	
D1: 縫合不全	縫合不全の改善 縫合不全症状の持続	A5: 術後回復期 D2: ストーマ造設術	
D2: ストーマ造設術	出血によるショック症状がある 麻酔覚醒が良好。and 循環動態が安定している。	B1: 出血 D3: ストーマ造設 術 後ハイリスク期	
D3: ストーマ造設 術 後ハイリスク期	出血によるショック症状がある 麻酔覚醒が良好。and 循環動態が安定している and 呼吸状態が安定している	B1: 出血 D4: ストーマ造設 術 後急性期	
D4: ストーマ造設 術 後急性期	体動拡大できる and 循環動態が安定している and 呼吸状態が安定している 出血によるショック症状がある 肺炎症状がある	A5: 術後回復期 B1: 出血 E1: 術後肺炎	
E1: 術後肺炎	肺炎症状がない	A5: 術後回復期	
F1: 創感染	創感染の症状がない	A6: 退院準備期	
G1: 骨盤内感染	骨盤内感染の症状がない	A6: 退院準備期	
H1: 排尿障害	排尿障害がない	A7: 退院	
I1: 排便障害	排便障害がない	A7: 退院	

# 【中間集計】

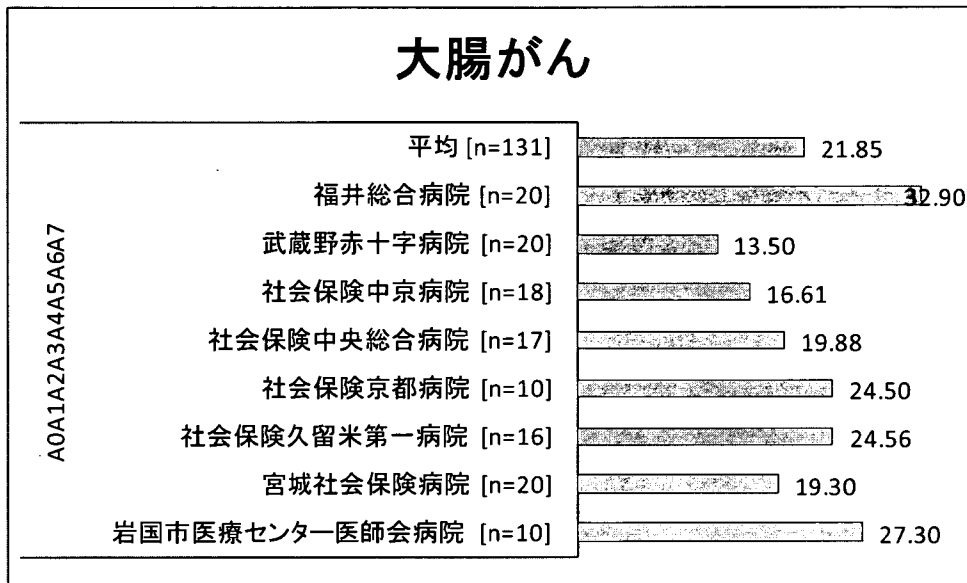


大腸がんの経路パターンとカバー率

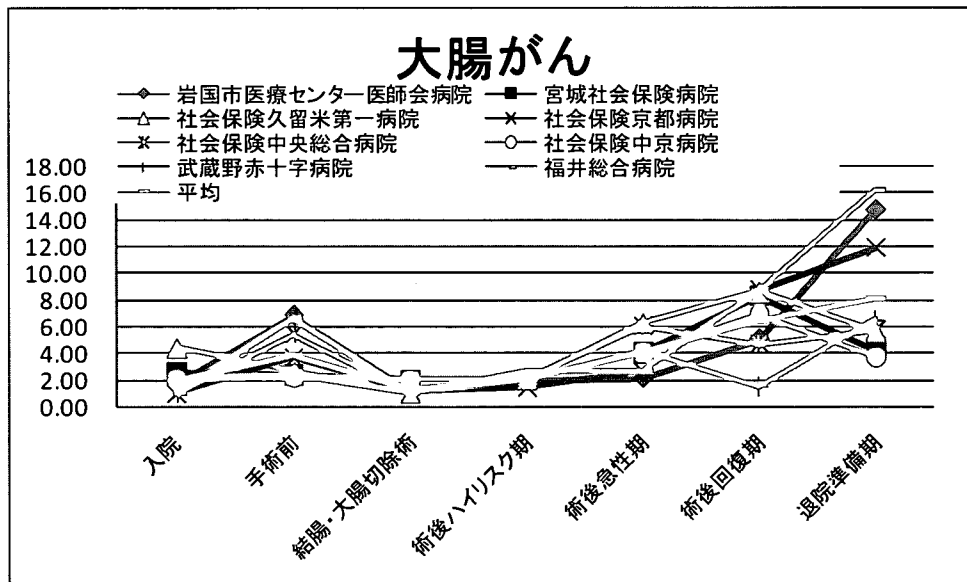
パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
大腸がん	A0-A1-A2-A3-A4-A5-A6-A7	131	84.0%	○	89.7%
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-F1-A6-A7	7	4.5%	○	
	A0-A1-A2-A3-A4-E1-A5-A6-A7	1	0.6%	○	
	A0-A1-A2-B1-A3-A4-A5-A6-A7	1	0.6%	○	
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-H1-I1-A6-A7	5	3.2%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-H1-A6-A7	3	1.9%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-C1-A6-A7	2	1.3%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-C1-C2-C3-A6-A7	1	0.6%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-D1-A5-A6-A7	1	0.6%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-G1-H1-A6-A7	1	0.6%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-I1-A6-A7	1	0.6%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-F1-C1-C2-C3-A5-A6-A7	1	0.6%	×	
	A0-A1-A2-B1-A6-A4-A5-A6-A7	1	0.6%	×	
	計		156	100.0%	



# 【中間集計】



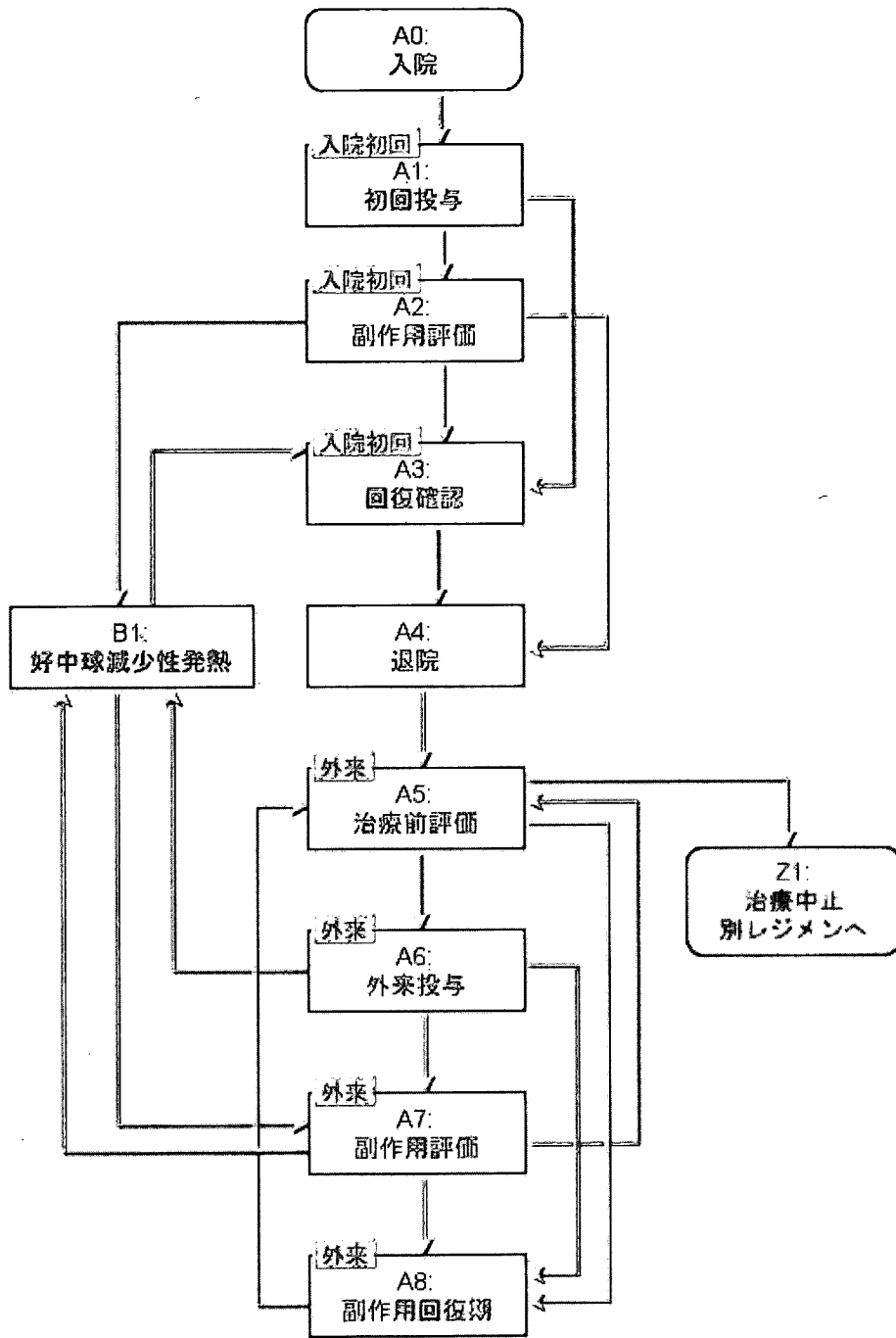
大腸がんの平均在院日数比較



大腸がんのユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

## 9) がん 乳がん (AC療法)



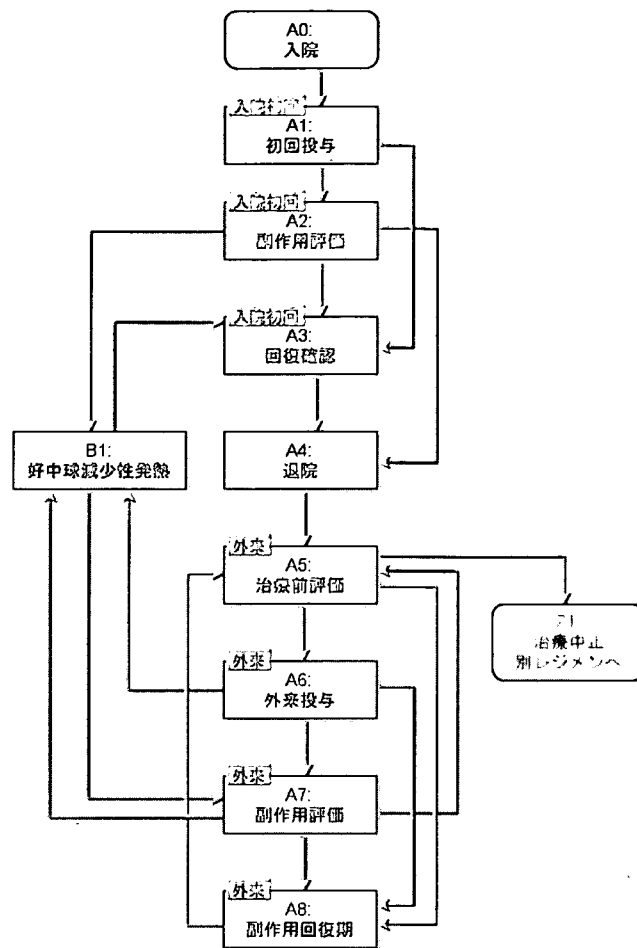
# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 乳癌 (AC療法)

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 入院	治療が不可能な状態ではない	A1: 初回投与	
A1: 初回投与	投与前後でバイタルサインが安定(血圧変動、脈拍の著しい増加、体温の上昇がない) and 投与時トラブル(血管外漏出、アレルギー反応、アナフィラキシーショック)がない 主治医判断で、治療が行えない状態である	A2: 副作用評価	
A2: 副作用評価	出現した副作用がGrade2以下に軽快 治療を妨げる副作用がなく、外来通院へ移行可能 Grade3-4の好中球減少を認める	A3: 回復確認 A3: 回復確認 A4: 退院	
A3: 回復確認	前回の治療から回復し、治療の意志をもって来院できる or 前回の治療中に治療中止に相当する副作用の出現を認めていない	B1: 好中球減少性発熱 A4: 退院	
A4: 退院	外来治療へ移行	A5: 治療前評価	
A5: 治療前評価	前回の治療から回復し、治療の意志をもって来院した and 治療中止に相当する副作用の出現を認めていない 副作用のため治療継続が困難 or 原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断 Grade3以上の副作用を認めたため治療を延期	A6: 外来投与 Z1: 治療中止 別レジメンへ A8: 副作用回復期	
A6: 外来投与	投与前後でバイタルサインが安定(血圧変動、脈拍の著しい増加、体温の上昇がない) and 投与時トラブル(血管外漏出、アレルギー反応、アナフィラキシーショック)がない 外来投与後明らかな副作用が無い Grade3-4の好中球減少症を認める	A7: 副作用評価 A8: 副作用回復期 B1: 好中球減少性発熱	
A7: 副作用評価	副作用が全く無く、次回治療が可能 副作用がGrade2以下に回復、次回治療が可能 Grade3-4の好中球減少症を認める	A5: 治療前評価 A8: 副作用回復期 B1: 好中球減少性発熱	
A8: 副作用回復期	副作用から回復し、次回治療が可能	A5: 治療前評価	
B1: 好中球減少性発熱	発熱性好中球減少症から回復(次回治療は減量を推奨) 継続して治療を続行	A3: 回復確認 A7: 副作用評価	

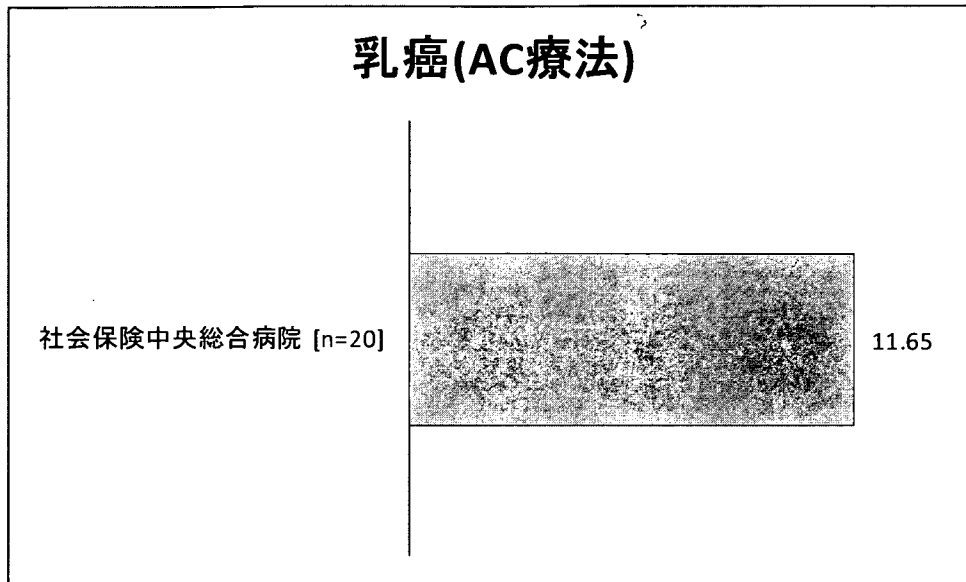
# 【中間集計】



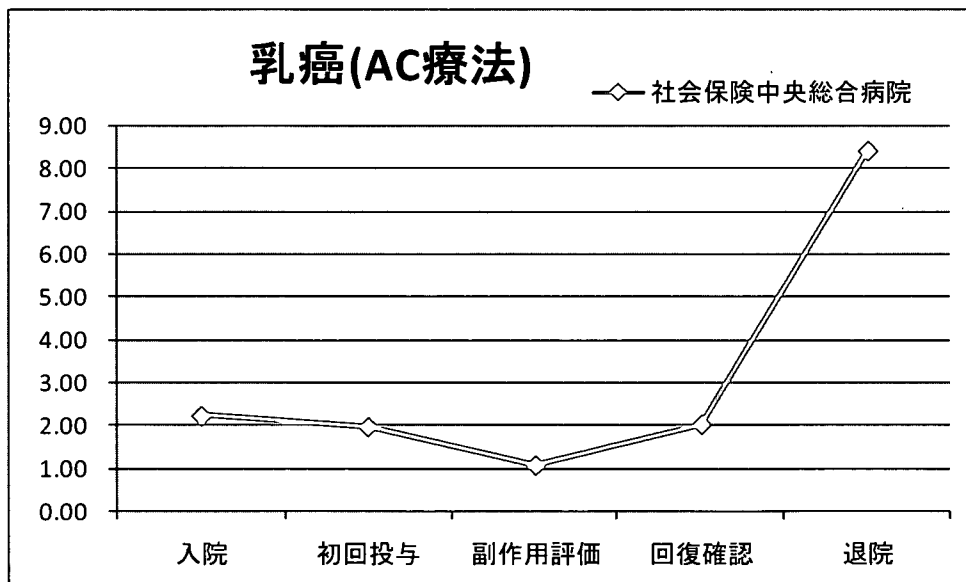
乳癌（AC療法）の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
乳癌(AC療法)	A0-A1-A2-A3-A4-A5	20	100%	○	100%
	計	20	100%		

## 【中間集計】



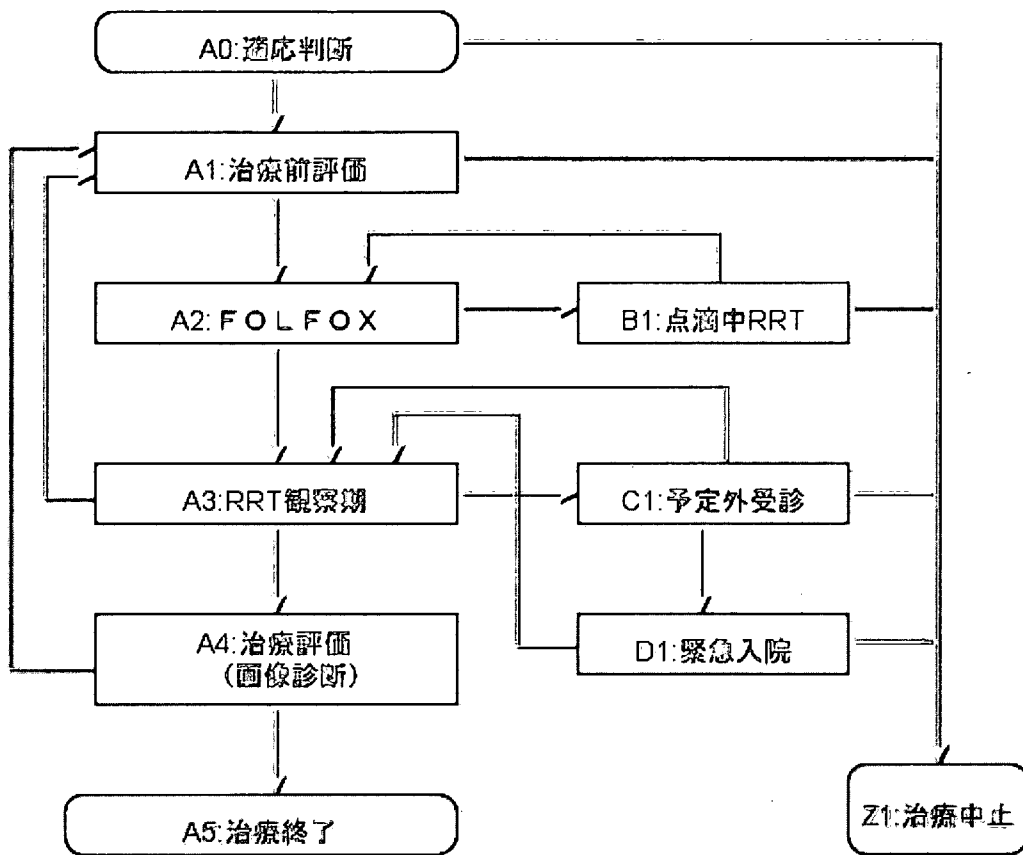
乳癌（AC療法）の平均在院日数比較



乳癌（AC療法）のユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

大腸がん化学療法 (FOLFOX)



# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 大腸がん化学療法 (FOLFOX)

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 適応判断	FOLFOXバスの適応基準を満たす and 除外基準を満たさない and 患者の治療の同意が得られている FOLFOXバスの適応基準を満たさない	A1: 治療前評価 Z1: 治療中止	
A1: 治療前評価	FOLFOX投与基準を満たしている and 患者さんの治療の意志がある 治療継続が困難なRRT or 原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断	A2: FOLFOX Z1: 治療中止	
A2: FOLFOX	FOLFOXの投与が施行された。 以下の項目に該当するもしくは下記以外の想定外の事象の出現 ・発熱 (CTCAE Grade 1以上 38℃以上の発熱) ・低血圧 (CTCAE Grade 2以上 短時間の輸液などの治療を要する; 生理機能に影響なし) ・呼吸困難 (CTCAE Grade 1以上 労作時呼吸困難) ・低酸素血症 (酸素飽和度がベースラインより低下する (CTCAE grade 2以上 労作時の酸素飽和度の低下)) ・皮疹 (CTCAE Grade 1以上) ・アレルギー反応 (CTCAE grade 1以上)	A3: RRT観察期 B1: 点滴中RRT	
A3: RRT観察期	前回の治療からDay 15以降で、治療の意志をもって来院できる。 前回の治療中に治療中止に相当する副作用の出現を認めていない。 2か月に1回を目安として画像評価を行うとき 以下の項目および想定外の症状の出現 ・嘔気・嘔吐 (PS 2以上; 連続して3回以上の嘔吐がある場合; 嘔吐後に吐気が持続し、経口摂取が困難である; 高度の脱水がある) ・発熱 (PS 2以上; 飲水を含めた経口摂取が困難である; 指示の抗生剤内服が出来ない; 指示の抗生剤内服後、3日目の時点で発熱の改善を認めない) ・下痢 (PS 2以上; Grade 2以上の下痢; 経口摂取不能; 高度の脱水)	A1: 治療前評価 A4: 治療評価 (画像診断) C1: 予定外受診	
A4: 治療評価 (画像診断)	CTの検査が終了する 主治医の判断(レジメン上の明確な規定はないため、病状・副作用・患者の身体および精神状態を含めた総合的な判断による)	A1: 治療前評価 A5: 治療終了	
B1: 点滴中RRT	急性期RRTからの回復 治療継続が困難なRRT or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断	A2: FOLFOX Z1: 治療中止	
C1: 予定外受診	入院治療の必要がない 入院治療が必要と判断される 治療継続が困難なRRT or 原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断	A3: RRT観察期 D1: 緊急入院 Z1: 治療中止	
D1: 緊急入院	外来による治療継続が可能となる 治療継続が困難なRRT or 原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断	A3: RRT観察期 Z1: 治療中止	

## 【中間集計】

### 大腸がん(化学療法)パス適応基準

FOLFOX療法の適応基準を満たす  
FOLFOX療法の除外基準を認めない  
CVポート挿入に同意されている  
CVポート挿入の除外基準を認めない  
FOLFOX療法を受けることに同意している

### FOLFOX適応基準

切除不能もしくは再発大腸がんである  
組織学的に腺がんであることが確認されている  
Performance statusが0-2である  
主要臓器機能が保たれている  
FOLFOX開始基準に準ずる

### FOLFOX除外基準

化学療法に使用する薬剤にアレルギーがある  
日常生活に影響を及ぼす末梢神経障害を有する  
活動性のある感染症を有している  
重篤な合併症を有する:下痢・消化管出血病変・高度心機能障害など  
他の抗ガン剤による治療を施行されているもしくは前回の治療の治療関連毒性から回復し  
妊婦あるいは妊娠している可能性がある

### FOLFOX開始基準

Performance statusが0-2である  
主要臓器機能が保たれている  
骨髄機能:WBC >3000/mcl, Plt >100000/mcl  
肝機能:T.Bil <2.0mg/dl, AST <100IU/l, ALT <100IU/l  
腎機能:Cre <1.2mg/dl  
前回までの治療関連毒性が血液毒性でGrade 3以下かつ非血液毒性でGrade 2以下である  
活動性のある感染症を有しない  
患者さんがFOLFOX療法を受ける意志がある  
医師により治療開始が可能と判断される

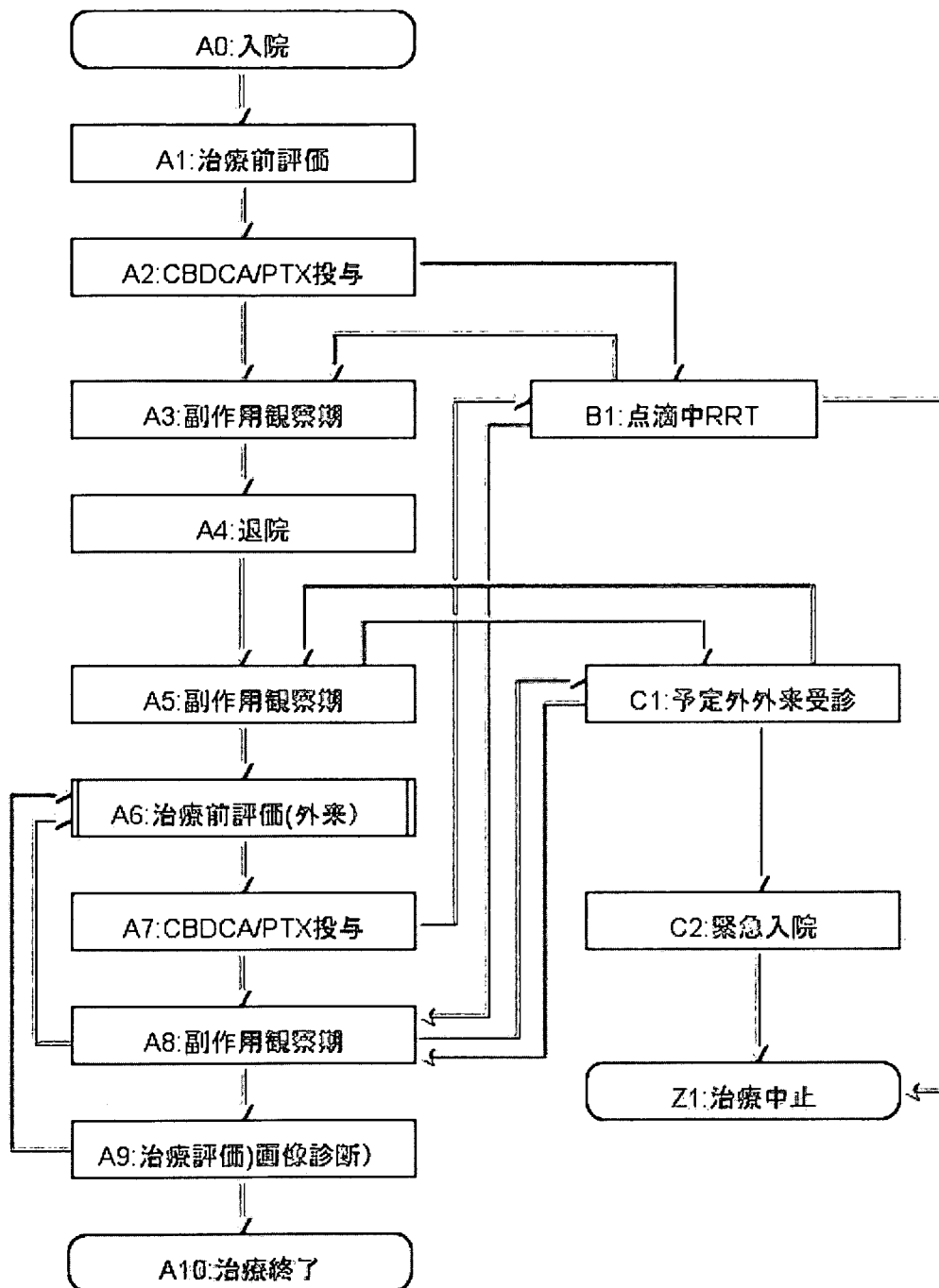


## 【中間集計】

大腸がん化学療法（FOLFOX）については、  
経路の処理を検討中である。

# 【中間集計】

肺がん化学療法(CP)



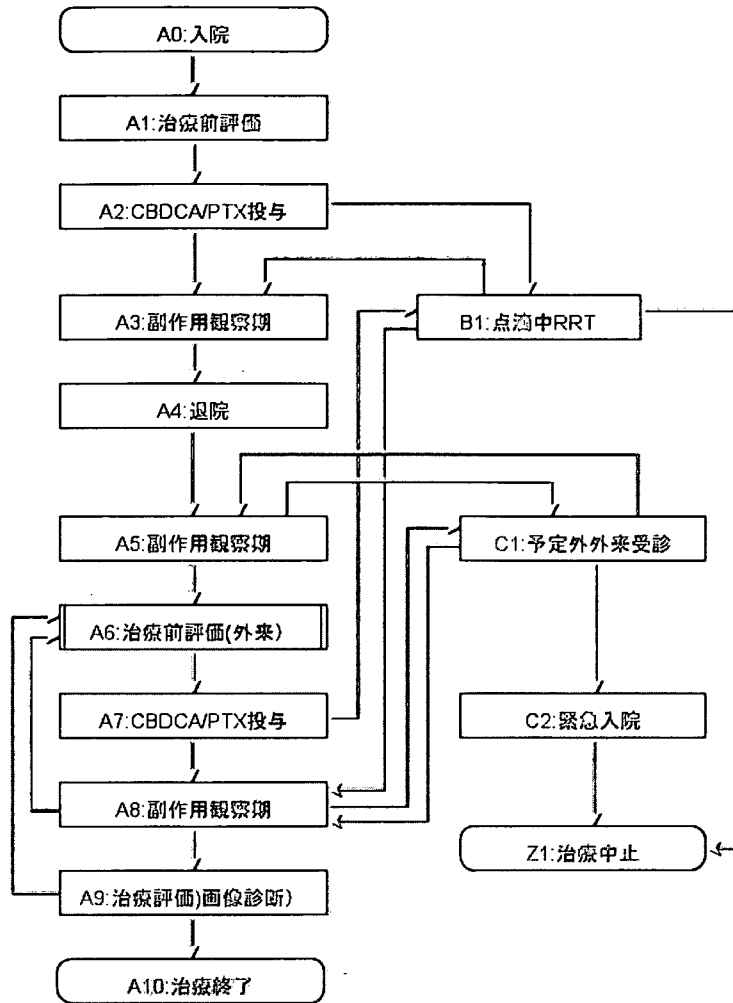
# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 肺がん (CP)

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 入院		A1: 治療前評価	
A1: 治療前評価	CBDCA/PTX投与開始基準を満たす and 血液毒性および非血液毒性ともにCTCAE grade 1以下に回復している and/or 主治医の判断	A2: CBDCA/PTX投与	
A2: CBDCA/PTX投与	CBDCA/PTXの投与が終了する 以下の項目に該当するもしくは下記以外の想定外の事象の出現 ・発熱 (CTCAE Grade 1以上 38℃以上の発熱) ・低血圧 (CTCAE Grade 2以上 短時間の輸液などの治療を要する; 生理機能に影響なし) ・呼吸困難 (CTCAE Grade 1以上 労作時呼吸困難) ・低酸素血症 (酸素飽和度がベースラインより低下する (CTCAE grade 2以上 労作時の酸素飽和度の低下)) ・皮疹 (CTCAE Grade 1以上) ・アレルギー反応 (CTCAE Grade 1以上)	A3: 副作用観察期 B1: 点滴中RRT	
A3: 副作用観察期	CBSCA/PTXの投与が終了し、退院が可能となる	A4: 退院	
A4: 退院	退院が完了する	A5: 副作用観察期	
A5: 副作用観察期	前回の治療からDay 29以降で、治療の意志をもって来院できる。 前回の治療中に治療中止に相当する副作用の出現を認めていない。 以下の項目及び想定外の事象の出現 ・嘔気・嘔吐 (PS 2以上; 連続して3回以上の嘔吐がある場合; 嘔吐後に吐気が持続し、経口摂取が困難である; 高度の脱水がある) ・発熱 (PS 2以上; 飲水を含めた経口摂取が困難である; 指示の抗生剤内服が出来ない; 指示の抗生剤内服後、3日目の時点で発熱の改善を認めない)	A6: 治療前評価(外来) C1: 予定外外来受診	
A6: 治療前評価(外来)	CBDCA/PTX投与開始基準を満たす and 血液毒性および非血液毒性ともにCTCAE grade 1以下に回復している and/or 主治医の判断	A7: CBDCA/PTX投与	
A7: CBDCA/PTX投与	CBDCA/PTXの投与が終了する 以下の項目に該当するもしくは下記以外の想定外の事象の出現 ・発熱 (CTCAE Grade 1以上 38℃以上の発熱) ・低血圧 (CTCAE Grade 2以上 短時間の輸液などの治療を要する; 生理機能に影響なし) ・呼吸困難 (CTCAE Grade 1以上 労作時呼吸困難) ・低酸素血症 (酸素飽和度がベースラインより低下する (CTCAE grade 2以上 労作時の酸素飽和度の低下)) ・皮疹 (CTCAE Grade 1以上) ・アレルギー反応 (CTCAE Grade 1以上)	A8: 副作用観察期 B1: 点滴中RRT	
A8: 副作用観察期	前回の治療からDay 29以降で、治療の意志をもって来院できる。 前回の治療中に治療中止に相当する副作用の出現を認めていない。 2コース治療の治療ごとを目安に画像評価を施行	A6: 治療前評価(外来) A9: 治療評価 (画像診断)	
A9: 治療評価 (画像診断)	前回の治療からDay 29以降で、治療の意志をもって来院できる。 前回の治療中に治療中止に相当する副作用の出現を認めていない。 主治医の判断 (4もしくは6コース施行が標準的な治療回数とされる)	A6: 治療前評価(外来) A10: 治療終了	
B1: 点滴中RRT	入院中であり、点滴中RRTより回復 外来治療中であり、点滴中RRTより回復し、外来通院が可能と判断される 治療継続が困難なRRT or 原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断	A3: 副作用観察期 A8: 副作用観察期 Z1: 治療中止	
C1: 予定外外来受診	A5より移行した場合で、外来での治療継続が可能と判断される A8より移行した場合で、外来での治療継続が可能と判断される 外来での治療が困難と判断される	A5: 副作用観察期 A8: 副作用観察期 C2: 緊急入院	
C2: 緊急入院	外来での治療が困難と判断される	Z1: 治療中止	

## 【中間集計】



肺がん化学療法 (CP) の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
肺がん (CP)	A0-A1-A2-A3-A4	20	100%	○	100%
	計	20	100%		